

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390101261		
法人名	社会福祉法人 嘉悠会		
事業所名	グループホーム城南スマイル ～ にじ		
所在地	熊本県熊本市南区城南町下宮地397-2番地		
自己評価作成日	平成 27 年 2 月 20日	評価結果市町村受理日	平成27年 4月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アクシス		
所在地	熊本県熊本市八幡9-6-51		
訪問調査日	平成27年 3月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

熊本市南部に位置する城南町のほぼ中央にあります。のどかな地域であり春には近くの散歩コースの田畑にレンゲが咲き誇り秋には国の天然記念物である隈庄の下田の銀杏が黄色に色づき太陽の光を浴びてとてもきれいな姿を見せてくれます。一方ではスーパーなど商業施設が立ち並び買い物に便利な場所に立地しています。建物は地熱を利用した換気システムと床暖房にて年間を通してエアコンを使用する事なく自然に近い体感温度で快適に過ごすことが出来ます。近くには当法人の地域密着型特養と協力病院があり医療面や緊急時の協力体制が整っています。又、どなたでも利用しやすくするため低額の利用料金設定を行っています。入居者皆様と職員がいつも寄り添って過ごしておりお互いが信頼しながら暮らしています。いろいろな事を教えたり教えられたり入居者と職員が支え合って安心安全楽しい暮らしを送っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

熊本市と合併し、開発が進む城南町のほぼ中央部にあり、国道から少し入ったところにある事業所は、自然ののどかさと利便性を兼ね備えています。地熱エネルギーを利用した高気密・高断熱の建物は、年間を通じて23～24℃に保たれており、室内環境の維持や利用者の健康管理にも寄与しているものと思われます。また、地域の清掃活動への参加や、近くの保育園児との交流も始めています。最近行われた避難訓練には、区長や地区の班長、地元の消防団長・団員など5名の応援があり、実施されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼の最後に参加職員全員で唱和を行う事により気が引き締まり職員としての心構えを再確認する機会となっている。	事業所は、職員心得として「私たちは親孝行します」という方針のもと、6項目から成る具体的な行動目標を掲げている。毎日の朝礼では、参加職員で唱和を行い、気持ちの引き締めを行うと同時に、実践への誓いを新たにしている。	心得の1項目には「いつも笑顔と思いやりの気持ちで優しくそっと寄り添います」と謳われています。朝礼で確認した上で、さらに自分で評価してみる機会もあったらいいなあと思います。例えば、笑顔は“○”だったけど、思いやりは“×”だったなどです。次の目標が見えてくるとと思います。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の保育園の園児との交流ができている。地域の一斉清掃に参加している。	近くの保育園の園児との交流が始まったことは、とてもいい実践であると思う。また、昨年は地域の一斉清掃に職員5名で参加したり、その他側溝の清掃にも職員が参加している。	事業所自体としては、自治会に入会することは難しいようですが、入居者の中には入会されている方もおられ、回覧板が回ってくるそうです。その中で地域の色々な情報を目にするにはあるようですが、運営推進会議等を利用して、地域の情報収集を行い、出来ることから取り組んで欲しいと思います。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いつでも相談受け付けており可能な限りのアドバイスを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催しており入居者の様子や行事、利用状況の報告を行っている。会議で出た意見から保育園児との交流に繋がり入居者から喜びの声が聞こえている。	運営推進会議の外部からのメンバー構成は、区長兼民生委員、老人会長、地域包括支援センター職員、利用者の家族となっている。会議の内容としては、入居者の状況や事業所の取り組み、また利用状況の報告等を行い、意見や助言をもらっている。保育園との交流が始まったのは、会議の中で地域包括支援センターの職員の提案がきっかけのことである。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	熊本市から毎月、1回介護相談専門員の派遣があっており入居者一人ひとりとの馴染みの関係ができ自分の思いを伝える事ができて来ている。	熊本市職員の運営推進会議への出席はないが、市が派遣する介護相談専門員の受け入れを行っている。また、運営上分からない点や判断に迷うところがあれば、その都度担当部署に連絡を入れ、指導を仰ぐようにしている。	

グループホーム城南スマイル ～ にじ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	いつも身体拘束とは何か、なぜしたらいけないのか、声かけが抑制になっていないかなどを考え、振り返りを行っている。	ミーティング時に限らず、研修資料やニュース、また新聞記事をもとに話し合いを行っている。「声掛けで、“ちょっと待ってください”とつい出てしまい反省しています。」という言葉が聞かれた。特に夜間一人の時に同時に声がかかり、理解をしてもらってどうしても待てない方を優先する際に、もう一人の方に対する心使いの大切さについて話しがあった。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケアワーカーミーティングの後、勉強会を行い、職員全員お互いが観察に努め防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	可能な限り外部研修に参加しケアワーカーミーティングの際、報告と勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	理解されるまで説明を行っている。尚、安心して頂けるよう話しやすい雰囲気作りに努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員全員が話しやすい雰囲気づくりに努め、面会時、家族会等で出た意見要望に関してはしっかり傾聴し早期の解決に努めている。	青年後見人制度を利用している入居者も数名おられる。日頃から職員全員で、意見や要望の言い易い環境づくりに取り組んでいる。また近いうちに家族会の計画も行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	いつでも意見やアイデアを出しやすい雰囲気作りに努めている。尚、ミーティングの際も誰でも意見が出しやすいような環境作りに努めている。アイデアや意見については全員で話し合い可能な限り取り入れている。	普段から意見やアイデアがあれば、他の職員とも話し合った上でやってみようという方針の方針である。毎月のミーティングでも話しやすい雰囲気づくりに取り組んでおり、人の前では言いにくい場合なども考慮して、個別対応も行っている。これまで、職員の意見でバイタル表の改善等を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員には年2回自己評価をしてもらいそこでそこで目標を掲げてもらいその達成状況により賞与等に反映させている		

グループホーム城南スマイル ～ にじ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内部研修や外部研修等出来る限り研修の機会を設けている。尚、資格取得の推進を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	熊本市ブロック連絡協議会の研修会には出来る限り参加しており交流に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の不安を出来る限り取り除くことが出来るよう傾聴し安心に繋がるような支援に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	必ず面会し話しやすい雰囲気作りに努め、思いを傾聴し安心して頂ける様な支援に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時は必要なサービスの見極めを行い、法人全体のサービスやその他のサービスについても視野に入れた対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気の中、入居者、職員が家族のような関係が出来ている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とのコミュニケーションを大切にしており情報の交換に努め、情報の共有を出来る限り図っている。		

グループホーム城南スマイル ～ にじ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	久しぶりに従妹と再会、元同僚の訪問など出来る限りの支援を行っている。近所の妹様宅へ訪問の支援を行うこともある。	久しぶりに従妹夫婦との再会が実現した入居者がおられたり、近所の妹と行ったり来たりされている入居者もおられる。事業所は、関係が途切れない様に支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルやソファの席などの配慮に努めお互いが穏やかに過ごせるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同法人の特養に移られた方もおられ、時々、面会行っており馴染みの関係を出来る限り継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お一人おひとりの声を大切に傾聴している。また、入居者同士の会話の中からも思いを受け止める事が出来るよう努力しており「寄り添うケア」の実践に努めている。	入居者同士の会話の中から、昔の仕事が分かったり、介護相談専門員との面談から“本人さんがそんなことを言われたのですか”など、気づかされることもあるとの事である。“寄り添うケア”の実践の中で、思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族との会話の中から生活歴やこれまでの暮らしについて情報を集めその方について把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人おひとりの性格や体調などの把握を行い、その方が持つておられる力を見極めて出来る限りその方らしい暮らしが出来るよう支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の希望・要望に耳を傾けて介護計画に取り入れている。担当職員や主治医、看護師の意見も踏まえた計画書作成を行っている。	成年後見人制度を利用している方が3名程おられる。担当者会議への家族の参加は様々なようである。参加が難しい場合は、面会時を利用したり電話による要望の聞き取りを行ったりしている。協力医をかかりつけ医とされている場合は、主治医や主任看護師の意見も取り入れている。その他の方については、担当職員や看護師の意見を踏まえ、作成している。	

グループホーム城南スマイル ～ にじ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録を確認すると共に申し送りや職員同士の会話の中から情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況や希望により法人内の事業所や他事業所との連携を図り協力行い調整を図っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の保育園児とのふれあいは入居者にとって楽しみな時間となっている。尚、時々ある近所の方の訪問も楽しみな時間のひとつとなっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人・家族の希望で決めて頂いており、協力病院とは信頼関係ができており月に1回及び随時の受診介助を行っている。	かかりつけ医は、本人・家族の希望を尊重している。受診時の付き添いについては、家族の対応が基本となっている。現在、協力医をかかりつけ医とされている利用者が6～7割おられ、受診時の介助を行っている。協力医とは、信頼関係も築かれており、早め早めの対応を行ってもらえる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日、報告行くと共に情報交換を密に行っており早めの対応に努めている。毎日、必要に応じて看護師による健康チェックを行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	担当医など医療関係者と情報交換しながら安心して治療が受けられるよう支援行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、家族にここで出来る精一杯の支援について説明行い今後についての協議を行っている。出来る限り希望に沿った支援が出来るよう医療機関にも相談し連携を取ながら職員全員で取り組んでいる。	現在、看取り支援は行っていない。入所の際、入院が必要となった場合の希望や、協力医の件、また延命治療を希望するかどうかについては、聞き取りを行っている。家族には、事業所で出来る精一杯の支援を行う旨の説明を行っている。	

グループホーム城南スマイル ～ にじ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会等において緊急の対応についてはシュミレーション等を交えながら学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っており職員全員が真剣に取り組んでいる。水消火器を使用している消火訓練も職員全員が参加している。3月20日に地域の皆様の協力を得る事が出来、避難訓練実施予定となっている。	年に2回の避難訓練を行っている。最近も行われたようで、近隣から5名程(区長、地区の班長、地元消防団など)協力を得て実施することが出来ている。夜勤を行う職員からは、年に2回の訓練では心もとないとの意見も上がっている。	防災アドバイザーは、実際の災害を前に訓練以上の力を発揮することは難しいと言っています。職員からも、不安の声が上がっているということで、訓練の回数を増やすことと、近隣の協力体制づくりに今まで以上に取り組んで欲しいと思います。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「利用者本位」常に職員全員がお一人おひとりの立場になって尊敬の気持ちを忘れず優しい対応に努めている。	日頃から人生の先輩として尊敬の気持ちを忘れず、利用者本位の対応を心掛けている。職員からは、常に敬語で話しかけるようにしていること、また夜はおむつの方もおられ、自尊心を傷つけることの無いように注意しているとのことである。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何でも話しやすい雰囲気職員全員が心がけ、声かけ、傾聴に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り自分のペースで自由に過ごして頂ける様支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意思を一番に可能な限り一緒に選んでいる。自分で選ぶ事が困難な方については職員が選んで出来る範囲で確認して頂くよう支援行う。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きや下膳など無理なく可能な範囲で支援行っている。	朝食のみ事業所で調理しており、昼と夜については、同法人の別事業所で一緒に調理している。利用者の状態に応じた、とろみ付けやキザミまたミキサー食などの個別対応を事業所内で行っている。また食が進むよう、リハビリ体操や嚥下体操も取り入れている。	

グループホーム城南スマイル ～ にじ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量のチェックを行い摂取量の把握に努めている。お一人おひとりの状態の把握に努め誤嚥予防にトロミを付けたり量を調節、形態を変えるなど安全においしく食べる事が出来るよう支援行う。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けを行い支援行っている。口臭、風邪予防としてお茶(カテキン)嗽を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック行うことである程度、排泄のパターンが把握できている。そわそわ落ち着きがないなどの行動や、サインを見落とさないよう観察行っている。自分で出来る事は自分でして頂くよう支援行っている。	排泄チェック表を付けており、ひとりひとりの排泄パターンが把握できているということで、これまで、リハビリパンツだった方が布パンツへの状態が良くなった例もあるということであった。ほとんどの方が部分介助でいいとのこと、自分で出来ることは自分でしてもらい、残存昨日の維持に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分をしっかり摂取して頂いている。食物繊維やヨーグルト等をしっかり摂って頂いている。必要に応じて主治医に相談を行い内服処方をして頂くこともある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望に応じて入浴の時間や順番などを決定している。拒否ある時は声かけの方法に工夫を行い臨機応変に対応している。	入浴の回数は週に3回となっている。楽しく入浴してもらうよう、ゆず湯やしょうぶ湯の支援も行っている。利用者の中には“今、かぜ引いているもんね”とか“帰って入るからいい”など言われ拒否される方もおられるようで、そんな時は「お手伝いさせてください」や「ちょっと行きましようか？」などの声掛けを行い、うまい対応を行っている。どうしてもダメな場合は、無理強いせず翌日に入ってもらおうなどの対応を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来る限り自由に過ごせるよう支援行っている。安心して頂けるな声かけを心がけており快適に過ごせるよう環境整備を行っている。		

グループホーム城南スマイル ～ にじ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服説明書を個人ファイルにとじておりすぐ確認できるよう支援行っている。与薬チェック表にチェック行い確実に確認を行っている。体調に変化ある時は主治医に相談行い早めの対応に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	朝の掃除の際モップを持って手伝いをして頂いたり洗濯を職員と一緒に手伝って頂くなど気分転換と意欲ある暮らしの支援に努めている。尚、お互いがそれぞれに支え合う役割の支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所の妹様宅を職員と一緒に訪問されたり短時間のドライブや家族との外出もいつでも出かけられるよう支援行っている。	家族の協力があり、いつでも外出できる方もおられるようだが、その他の方については、協力医受診の際に遠回りをしてみるとか、区役所に用事がある時に一緒に行くようにするなど対応している。近くに塚原古墳公園や立岡自然公園などがあり、ドライブの支援も行っている。	これからは、外出に持ってこいの季節を迎え、体も動かしやすくなります。新緑を眺めながら、気分転換やストレス発散の支援の機会を今まで以上に増やしてほしいと思います。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があれば買い物へはいつでも行くことが可能であるが所持される方は3千円までをお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎日娘様から電話が掛かってきておりついでに、その方にとって毎日の楽しみな行事となっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	地熱利用の建物であり冬場でも快適に過ごすことができる。日中は自然のあかりの中で過ごせるよう採光に工夫している。リビングで過ごされる際自分の居場所を確保されており楽しく過ごされている。	事業所は高気密高断熱構造の建物で、地熱をエネルギー源とした空調を利用しており、室内温度は年間を通して23～24℃に設定されている。要所要所にトップライトが取り付けられており、自然の光の中で暮らせるようになっている。また、室内環境にも配慮しており、加湿噴霧器も設置している。	

グループホーム城南スマイル ～ にじ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者のほとんどの方がリビングで過ごされる事が多く自分の居場所を確保されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	これまで使い慣れた馴染みの物を持参されたり本人が過ごしやすいレイアウトにしたり安心して過ごせるような空間作りに努めている。	居室の基本的な設備は、ベッド、空調、床頭台、テレビ台、引き出しなどとなっている。寝具やその他の日用品については、出来るだけ使い慣れたものを持参して頂くように話をしている。落ち着いて暮らせるよう、家族写真や仏壇などもあり、誕生日や母の日のプレゼントのお花なども飾ってある部屋もあった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーであり本人の居室にはネームプレートを掲示しておりトイレは大きく表示をしたり混乱予防に努めている。		